

## バンクーバー便り 18 『日本紀行』

バンクーバー時間：2024年1月12日(金曜日)午前6時30分

日本時間：2024年1月12日(金曜日)午後11時30分

今回は日本時間で2023年12月19日(火)から2024年1月5日(金)まで日本に一時帰国した折のことを書きたいと思います。バンクーバーから成田までは9~10時間程度のフライトで、帰りは地球の自転の関係のためですか8~9時間程度でした。根本的に僕は飛行機を信頼していないため、フライト中は身を固めて息をひそめているのでひどく疲れます。

19日に成田に到着しましたが、ほっとした安堵感が優位で嬉しいとか懐かしいなどの感情は抑えられていました。到着が夜になりましたので、成田空港近くのビジネスホテルで一泊して翌朝広島空港に降り立ちました。この頃になって「帰ってきた」という感慨が起こりました。空港からレンタカーで広島市内に入り、そして懐かしい我が家に迎えられました。その後は誠に惨めな10日間を過ごすことになりました。旅の疲れ、時差ボケ、機内で頂いた風邪、などが重なり寝て過ごすことになりました。この横臥三昧は疲れや時差ボケに功を奏したと思います。しかし帰国後に計画していたことは半分近く実現不能になりました。

元気回復とともに、日本での日常が戻ってきました。この中で実感したことは次の通りです。①出国前ではコンビニはあって当たり前という感じでしたが、非日常的な生活状態では極めて頼りになる素晴らしい店舗だということ(バンクーバーにはコンビニ自体がほとんどなく、あってもinconvenient store)、②物が驚くほど安く、しかも質が格段に良いこと(バンクーバーの物価は日本の1.5~2倍程度もし、肉・牛乳・野菜は単品量が多いために割安感がありますが、品質は日本と同等かそれ以下、その他の物品については言うに及ばず)、③日本のハッキンは価格・品質・使い勝手において世界に誇れること(バンクーバーにもハッキンを模したDollaramaという店がありますが1ドルの品は少なく、あっても質が悪いか量が少ない)、④日本のレストランは美味・廉価・奉仕・清潔でどれをとっても抜群(バンクーバーでは一杯のラーメンが10~20ドル、味はどこの国のものか不明、テーブルの汚れは当たり前で気になるなら客が自らテーブルを拭いてチップを払う)、⑤店員の礼儀や対応が王様待遇と思えるほどよい(バンクーバーでは店員に尋ねても適当な返事か「からない」という答えが来るだけなのに支払いをした後に客がthank youという)、⑥郵便局では郵便物を丁寧に扱い客の質問や要求に可能な限り応えようとする(バンクーバーでは客の対応は可もなく不可もないが郵便物は放り投げる)、などなど。日本にいたときには当たり前と思っていた物価、奉仕、対応が、帰国して再認識したことは日本が本当に親切で住みやすい国であることです。とはいっても何もかも日本が優れているとは思いません。殊に教育、労働、政策という国家の近代的な側面には根本的な問題があるように思います。一方、日本の長い歴史文化に基づいて培われてきた国民の生活的な側面には手の温もりを感じさせる優しさと暮らしやすさがあります。あるいはこのことが某政治家の言った「民度」の高さなのでしょうか。

しかしこの民度の高さにあぐらをかいて、日本の近代化をおざなりにして旧態然とした政策や教育が、大地震よりも早く日本を沈没させてしまうかもしれません。日本が小さな島国であることのメリット・デメリット、純朴な国民性を保持していることのメリット・デメリット、西欧にとって“黄金の国ジパング”であることのメリット・デメリット、など今一度考えてみる時期にあると思います。そして日本の長い歴史文化と西洋的な近代化が矛盾することなく融合して、新しい日本を実現するために、まずは教育の刷新によって若い力を力強く発揮できることが必要と思われます。

日本滞在中に、お世話になりました多くの方に感謝を申し上げます。殊に、娘の洗礼をしていた

だきました母教会の流川教会の皆様、絵本作りに多大なご尽力と留守宅の管理をしてくださいました姪家族の皆様、発達障害児の支援活動を通してラッコリンを守ってくださっているご家族の皆様、年末年始の日本の生活で迎えていただいた家内の実家の皆様、ネコ2匹を留守の間大切にお世話していただきましたご家族に皆様、に心から感謝を申し上げます。私たちがバンクーバーという土地でそれなりに生活できていますのも、目に見えない多くの方の支えがあってこそという実感もしました。さらに日本で住むことも海外で住むことも生活することに変わりなく、その地の文化や歴史を透明なベールの中にしまい込まずに美しく身にまとして生活することを忘れないことです。

